
陽気な笑い声

月島麻痺る

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

陽気な笑い声

【Nコード】

N6071P

【作者名】

月島麻痺る

【あらすじ】

二人の男が向かい合わせに座っていた。二人の間にはしきりが二つ。片方がもう片方に声を掛ける。「あなたはどのようにしてここにいらのですか」

私がどうしてここにいるか、ですか？ ええまあどうしても聞きたいならお教えしますがひどくつまらない理由ですよ。……そうですか。はい、あなたの気持ちはよくわかります。こんなところだと何もやることはありませんからね。ではお教え致しましょうか。聞いてください。

ふざけんな、いい加減にしろよ。この糞野郎が。

そう思いながら私は扉を叩いていました。

場所？ 状況？

それはおいおい話そうではありませんか。あなたはとても賢そうな顔つきをしていますからもう気づいているかもしれないがね。あえて言うなら私はとても我慢していたのです。本当に本当にしんどかった。

しかしまあ待っている間は相手の方も同じ苦しみを抱いていたのだらうと思っていました。ようやく辿り着いたその場所で思う存分用事を済ませようとすることをどうして同じ苦しみを知る私が咎めることが出来たでしょう？ 私はそのとき中の人と共感すら感じていました。そして中の人のそれが済んで私の番となったときそれはもう心地いいだらうなと思うと、シクシクと腹の辺りが痛むことにも耐えることが出来たのです。

中の人は、ええ、なかなか出てきませんでした。別の場所で済ましてしまえばと思う人もいるでしょうが、私も頑固です。私がここを離れた際に誰かに順番を掠め取られてしまうのではないかと思うと、どうしてもそこから離れることができなかったのです。

そろそろ場所を明かしておきましょうか。コンビニです。私と中の人が居たのはそこいら中にあるコンビニエンスストアの一つです。

話を進めます。

扉が開きました。おお、同士よ！ 私は彼に抱きつきたくなるのを堪えて彼を見ました。しかし彼の薄い水色の作業着と筭を見た瞬間に、私は青ざめました。

私が苦痛に耐えて開くのを待っていたトイレを占領していたのは、あることに清掃員だったのです！

ああもうあの時の私の怒りときたら、すみません、冷静に話すことができそうにない。少々お待ちください。

……………。

少し落ち着きました。

私はその清掃員の横顔をグーで殴りました。不倶戴天の大敵です。私が生涯生きていてあれほど強い力を出せたことはないでしょう。これから先にもきつとないと思います。私は意気揚々とトイレに入り用事を済ませました。出て行って警察に取り囲まれました。なんでも近頃この近くで人殺しが出ていたそうで、それと間違われていたらしいのです。それでいまここにいる訳です。余談ですが私が殴った清掃員は六十歳前後で耳が遠く、また体も弱っていたため商品棚に腰をぶつけて骨折したそうです。反省はしています。しかし私は同じ状況に陥ればもう一度同じことをやる自信があります。

留置場で陽気な笑い声が交わされた。

二人のうち一人は片方はコンビニのトイレで老人を殴り倒した男。もう片方は計画的な殺人を繰り返した知能犯だった。

(後書き)

・五枚会

で、これにしようと思ったが流石に独白っつ目はまずいだろうと思
って自重した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6071p/>

陽気な笑い声

2011年10月5日13時45分発行